

南葛西中学校応援団実践報告書

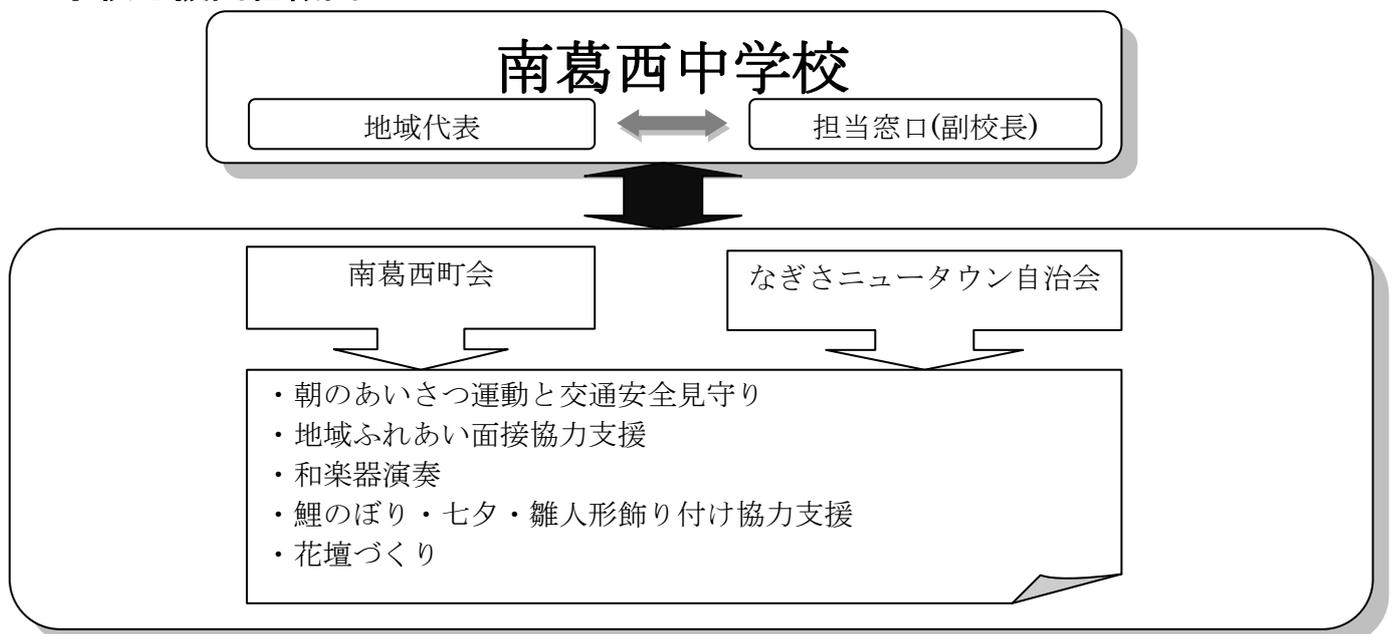
1 校長及び代表者氏名

南葛西中学校長 大友 照典
代 表 佐野 義郎

2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
安全・安心	朝のあいさつ運動 朝の交通安全見守り	○校門周辺で、朝のあいさつと生徒の安全を見守る。 ○通学路で登校の安全を見守る。
学習活動	地域ふれあい面接 和楽器の演奏 年中行事支援	○進路指導の一環として自己理解を深めさせると共に、地域社会の一員としての自覚を高めさせるため、面接指導を行う。 ○日本の伝統文化を学ぶ学習活動の一環として、百人一首大会において琴や尺八の演奏を聴かせ、和楽器の体験をさせる。 ○鯉のぼり(5月)、七夕(7月)、ひな人形(3月)の飾り付けに協力する。
環境整備	花壇づくり	○花壇の整備を行い、花の苗の植え付けや水やりなどの手入れを行う。

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

学校応援団の方々を学校行事にお招きして、生徒のようすを見ていただいたり、ふれあい面接で直接話しをしていただいたりするなど、生徒が地域の方とふれあう機会が増えてきた。互いに顔見知りになったことで、道で会ってあいさつを交わしたり、地域行事にボランティアとして参加する生徒も増えており、「学校と地域が一体となって子どもたちを育てよう」という気運が高まっている。ふれあい面接では「中学生から元気をもらった」と言うボランティアの方もおり、地域の活性化にも貢献している。

花壇の整備を地域の方々と一緒になって進めていく中で、地域に愛される開かれた学校として前進しつつある。

<課題>

地域にはいろいろな経験や特技を持った方が多数いらっしゃるのので、さらに人材発掘をすすめ、授業の中での支援など、子どもたちの学びをより一層豊かにしていくような取り組みを考えていきたい。

また、非常時に備えるために、学校応援団の方々と協力しながら、防災教育の充実も図っていきたい。学校の教育活動の中に、地域の方々との交流の時間を確保していくことが課題である。

5 代表より

先年、区内中学校PTA連合協議会の講演会で曾野綾子さんが「誰が教育するのか？」の問いかけをされ、その答えとして「50%は親、25%は学校の先生、25%が近所のおじさんおばさんを含めた地域社会」と話された。学校応援団創設の由縁とも思う。南葛西中学校で過去三年間「地域ふれあい面接」を続けてきた実績は、まさに25%の地域から学校への応援につながっている。

地域ふれあい面接では学年ごとに目標が設定されており、三年生の面接では、中学校生活の振り返りと共に将来の夢を聞き、地域からの応援の言葉も添えた。三年間続けると生徒の成長過程も直接見届けられる。

その結果、学校全体に活気がみなぎり、雰囲気ガラッと明るく変わった。校門に入った途端、あちこちから「こんにちは!」「こんにちは!」と声をかけられ、すがすがしい思いがする。「今日の面接の子はどんな子かな?」と、生徒に会うのがわくわく楽しみになってくる。地域の方々の将来を担う若い生徒たちへの期待もふくらむ。面接では、家庭内の様子、家事手伝いのようす、家族が助け合う姿も垣間見られた。しっかりした家庭の基盤があってこそ、学校でも落ち着いて学習ができ、非行に走る余地が少なくなる。

学校・家庭・地域がそれぞれの機能を発揮することが、落ち着いた環境で学習できる良い学校につながると考える。地域からのバックアップ体制として、地元の自治会・町会において、強力に学校応援団を下支え後押しする組織を作り上げることで、活動の継続性を図りたい。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みは、ゆっくりですが着実に歩みを進めています。

活動の中心になっている「ふれあい面接」では、昨年度よりも多くの方に協力していただけるようになりまし、内容は、今年から1・2年生で集団面接を取り入れ、都立高校の面接試験も意識して行いました。生徒は最初緊張していますが、応援団の方々の温かく包み込むようなお話により、素直で真面目な答えができるようになっていきます。一方で、地域の行事のお手伝いにボランティア参加する生徒の数が昨年より1.5倍以上増え、地域の方に喜んでいただいています。今後は、学校の花壇にお花などを植えたり、一緒に育てたりすることなどを企画していただいています。じっくりと長続きする取り組みをしていきたいと思ひます。